

朝日を浴びて体操、さわやかな一日の始まりです。青空と星空の下で、豊富な体験学習が待っています。



神崎のふれあい塾を拠点にした、パラエディ豊かな体験プログラム。子どもたちは食事や清掃など指導員の力を借りながら仲間と協力し、自分のことは自分で実践する2泊3日の共同生活を送りました。8月7日～9日に行われた「アドベンチャーふれあい塾」では、真っ青な空の下、まぶしい日差しを浴びながら、町内の小学3年生～6年生18人の元気な声が響きました。創作活動の灯籠づくりではそれぞれ個性豊かな絵を描き、外遊びではローポートやカヌーを体験。初めて触れるオールやパドルを懸命に漕ぎました。山登りでは、日王山から町のシンボル福智山と対面し、下山後の公園ではお揃った自作のおにぎりは格別な味でした。炎を囲んだキャンプファイアーは、忘れられない思い出の一夜に、ここで出会い、友情を育んだ子どもたちの体験は、日常では得ることのできない夏休みの大切な宝物になりました。



歓声をあげて水浴び、30 を超す猛暑でもヘッチャラ。



最初は恐る恐るでしたが、みるみる上達したローポート。

ふくちの夏、ふれあった夏。

遊んで学んだ アドベンチャー ふれあい塾。



みんなで力を合わせ準備したキャンプファイアーが闇を照らします。歌やクイズでも大いに盛り上がりました。



涼しげな流しそうめん、上手に取れたかな？「ヤッホー」元気な声がこだました日王山中腹。



みんなで作った灯ろうは「水と灯火の夕べ」で流します。来た時よりも美しく、お世話になった施設を念入りに清掃。

INTERVIEW

新しい友だちがたくさんできました。とても楽しく、いい経験ができたので、また参加したいです。



初めて参加した 弘中 咲希人くん(赤池)

！ 変わる 医療制度

国民皆保険を堅持し、国民の健康を守るために

平成20年4月から 新しい健診・保健指導の制度 がはじまります。

増え続ける国民医療費の適正化と生活習慣病の予防を目的として、平成20年度から40歳～74歳の人を対象に「基本健診・保健指導」が医療保険者(健康保険の運営団体)に義務付けられます。

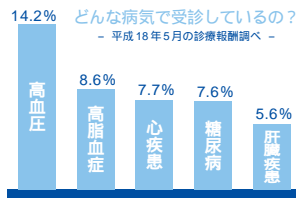
なぜ医療制度改革 が行われるの？

国内の生活習慣病患者数は年々増加の傾向をたどっています。平成14年度の糖尿病患者数は690万人で糖尿病予備群を含めると1千620万人の人がいるといわれています。

また、急速な人口の高齢化と、医療技術の進歩や生活習慣・疾病構造の変化などにより、わが国の国民医療費は毎年数千億単位で増加しています。平成16年度の国内の医療費は32兆円を超え、まだまだ増加していく傾向です。医療保険は、各機関とも極めて厳しい運営と国・県・市町村の財政を圧迫しています。このような状況を踏まえ、国民皆保険を堅持し、国民の健康を守るために、平成20年度に医療制度改革が行われます。

福智町における 1人あたりの国民健康保険 医療費は年間43万円！

国民健康保険の保険者は各市町村です。そのため福智町でも、国民健康保険の医療費の適正化に努めていく必要があります。福智町の1人あたりの年間医療費は43万2470円となっています。



もっとも多い病気は高血圧

この表はどのよう病気の有病率を示しています。高血圧が最も多く、高脂血症、心疾患といった生活習慣病の人が多いといえます。それらの病気の合併症の腎臓疾患や虚血性疾患、脳疾患も多いといえます。それが、医療費の高騰にもつながっています。そのため、生活習慣病の予防



て、国の37万3千80人と比較しても高いことがわかります。また、医療費がどのような病気の治療に使われているか、診療報酬明細書から分析したところ、狭心症・心筋梗塞などの心疾患や脳出血など、生活習慣に起因する病気に高額な医療費が使われていました。特に福智町は人工透析の患者が多いのも特徴です。

健診の内容が変わります

健診は今まで「老人保健法」に基づき、生活習慣病(心疾患、脳血管疾患、高血圧、糖尿病など)の早期発見・早期治療を目的に行われてきました。平成20年4月からは伸び続ける医療費対策の一環として、「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)に着目した健診(特定健診)と健診後の保健指導(特定保健指導)が医療保険者(国民健康保険や健康保険組合など)に義務付けられます。

健診は医療費の 無駄遣いではありません

健診は病気を発見するだけのものではありません。健診を受けて自分の健康状態をチェックし、生活習慣病の予防に努めましょう。生活習慣病を早期に予防することで、糖尿病やその後の人工透析などの病気に進むことを防ぐことができます。そのことが、結果的に医療費の節約にもつながるのです。